

アフリカ諸国が米国の反ロシア法に異議

南部アフリカ開発共同体(SADC)は、8月17日と18日にコンゴ民主共和国の首都キンシャサで開いた第42回首脳会議で、アフリカでのロシアの影響と活動に対抗する米国の法案に強い反対を表明しました。米国下院が採択した「アフリカにおけるロシアの悪質な活動に対抗する法律」は、米國務長官にアフリカにおけるロシアの活動に関する戦略を提出するよう求めています。

採択された SADC の共同声明は「最近米国下院で採択された『アフリカにおけるロシアの悪質な活動への対処法』で、アフリカ大陸がアメリカによる一方的かつ懲罰的な措置の対象となっていることに不満を表明し、大陸外のいかなる紛争にも非同盟という原則的立場をとること再確認し、この問題がアフリカ連合の議題に含まれることを指示した」と述べています。

「アフリカにおけるロシアの悪質な活動に対抗する法律」(H.R.7311)と名付けられた法案は、4月27日に米下院で超党派の419対9で可決されました。民主党と共和党が伯仲する上院でも承認されるとみられます。この法案は、國務省がアフリカにおけるロシア連邦の外交政策を監視することを可能し、軍事問題や「悪質な影響」とみなされるあらゆる行動を幅広い文言で規定。これに関与したアフリカ諸国を懲罰の対象にするとしています。

今回のサミットのテーマは、「包括的で弾力的な経済成長のための農産物加工、鉱物選鉱および地域バリューチェーンを通じた工業化の促進」で、前議長国マラウイのラザロ・チャクウェラ大統領は、外部勢力によるアフリカの資源争奪戦に対抗する大胆な姿勢を強調し、次のようにのべました。

「アフリカは売り物ではない。ビジネスのために開かれているのであって、売り物や略奪のためのものではない。私たちは、自分たちのものを守り、誰からも奪われまいようにしなければならない」

「もし世界が私たちの持っているも欲するなら、公正な取引で購入しなければならない。そうすれば、私たちはその収益で新しい都市、新しい大学、新しいインフラ、産業、そして貧困や脆弱性から人々を救う新しいプログラムを自分たちで作ることができるのだ」

「アフリカ大陸を建設するのは、アフリカ人だけだ。外国人がアフリカ大陸を発展させることはできない。なぜなら、彼らが我々に与えるものは何も築かず、過去のよう
に大陸に緊張をもたらすだけだからだ」。

SADC は、特に、持続可能で公平な経済成長と社会経済開発を促進し、貧困の緩和を確保し、南部アフリカの人々の生活水準を向上させることを目的としています。この 16 のメンバーからなる組織は、1980 年に設立されました。アンゴラ、ボツワナ、コモロ、コンゴ民主共和国、エスワティニ、レソト、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、セイシェル、南アフリカ、タンザニア連合共和国、ザンビア、ジンバブエがメンバーとして参加しています。

(田中靖宏 情報の出所「モダン・ディプロマシー」:2022 年 8 月 24 日)

[SADC Objects to United States Law on Countering Russian Activities in Africa - Modern Diplomacy](#)

SADC 首脳会議は米議会の反ロシア法案を拒否

南部アフリカの 16 の地域組織が、ペンタゴンによるウクライナ戦争からの独立を主張

アバヨミ・アジキウェ (パン・アフリカン・ニュース編集長)
グローバル・リサーチ、2022 年 8 月 31 日

[Washington's "Modern Cold War" against Africa. SADC Summit Rejects Anti-Russian Bill in U.S. Congress - Global ResearchGlobal Research - Centre for Research on Globalization](#)

南部アフリカ諸国が集まる南部アフリカ開発共同体 (SADC) は、最近の会合で、米国議会を通過中の最近の法案に不快感を表明した。この法案は、ロシア連邦との外交・貿易関係でアフリカを処罰することを目的としている。

この首脳会議は、「包括的で強靱な経済成長のための農産物加工、鉱物資源採掘、地域バリューチェーンを通じた工業化の促進」をテーマに開催された。南部アフリカ地域の現状を踏まえ 2030 年までの開発枠組みに含まれる SADC 工業化・市場統合プログラムの実施を強化する緊急の必要性を真剣に検討したものだ。出さ

れた声明は、ウクライナにおけるロシアの特別軍事作戦の外交的解決を求める必要性を強調してきたアフリカ連合（AU）加盟国の立場を踏襲している。

SADC の加盟国の指導者の多くは、長期の武装闘争や大衆闘争によって国家権力を獲得した民族解放運動から政党に転じた人たちである。1980 年に前身の南部アフリカ開発調整会議（SADCC）が結成されて以来、亜大陸を中心に経済・外交面での協力を進めてきた。30 年前の 1992 年 8 月、独立したばかりのナミビア共和国で開催された首脳会議で、SADC は現在の体制になった。

SADC の加盟国は、あらたに独率したコンゴ民主共和国（DRC）、コモロ連合、セイシェル、マダガスカル、モーリシャスの加盟により、過去 30 年間で増加してきた。この地域組織は、さまざまな加盟国の国家的危機の際に平和維持軍を提供し、また、地域内の政治的・憲法的危機の持続可能な解決策を協議してきた。アフリカのこの地域は、戦略的鉱物資源、石油、天然ガスなど膨大な天然資源に恵まれているため、帝国主義国家はこの地域で影響力を行使し続けてきた。SADC の創設メンバーであるジンバブエ共和国は、20 年以上にわたって欧米の制裁を受けてきた。

ここ数カ月、AU と SADC は、東欧における悲惨な軍事的冒険に関して、米国や EU 諸国、NATO からの圧力に抵抗してきた。バイデン政権によって促されたウクライナでの戦争は、数千人の命を犠牲にし、数百万人を混乱に陥れ、急増するエネルギーと食糧危機をもたらした。

8 月の SADC 首脳会議では、東欧の現状とアフリカ諸国の自決権行使と独立した外交政策の必要性について、繰り返し見解が述べられた。SADC 議長が現在の世界情勢に関して強調したことを、ホームページで次のように明らかにしている。

「アフリカは、世界の他の地域と対等なパートナーとして協力する用意があり、誰にも関与の条件を指図させないだろう。南部アフリカ開発共同体（SADC）の議長を退くマラウィのラザルス・マッカーシー・チャクウェラ大統領は、コンゴ民主共和国のキンシャサで開催された第 42 回 SADC 首脳会議でこのように述べた。「アフリカの外には、私たちが望むようにアフリカを建設しようとする者はいない。（アフリカを機縁説するのは）アメリカ人でもなく、ヨーロッパ人でもなく、アジア人でもない」とチャクウェラ大統領は言った。彼らは、あちこちに道路を作り、スタジアムを作り、数百万ドルをくれるかもしれないが、それは彼らにとっては小銭に過ぎず、西洋人や東洋人としてお互いに与える金額に比べれ

ば大したことはない。私たちには原資を非常に必要としているが、それをくれる人は誰もいないのだ』。

アフリカの主権を侵害する米国の法案

米議会の法案は、ロシア連邦がアフリカで影響力を拡大しようとする邪悪な努力に対抗するためのものとしている。だが現実には、ロシアは、ソビエト連邦の時代から、1950年代から1980年代にかけてアフリカの独立、統一、社会主義的志向に貢献してきた。

何千人ものアフリカの学生が旧ソ連や今日のロシアに留学している。モスクワと多数のAU加盟国との間には、数多くの経済、文化、社会的な共同プロジェクトが存在している。今年の11月から12月にかけて、AUの本部があるエチオピアのアディスアベバで、ロシア・アフリカ首脳会議が再開される予定だ。

最近の米国によるアフリカ大陸に対する冷戦的な攻勢は、アフリカ諸国がロシアと貿易やその他の協力を行う能力を弱めるための敵対的な作戦であることがわかる。モスクワ、ウクライナ、AU加盟国間の農産物や関連品の広範な貿易は、西側による制裁とロシアに対する代理戦争のために、ひどく妨げられている。

このような法律が、中華人民共和国、イラン・イスラム共和国、キューバ共和国、ベネズエラ・ボリバル共和国、その他の独立国家に拡大しないという保証はない。実際、これらの国々はすべて、ホワイトハウス、議会、国務省、国防総省、多国籍企業によって調整された経済措置の対象となっている。

モダン・デモクラシーの報道によると

「アフリカにおけるロシアの悪質な活動に対抗する法案」(H.R.7311)は、4月27日に下院で超党派の419対9で可決され、民主党と共和党が伯仲する上院でおそらく承認されるであろう。この法案は、国務省がアフリカにおけるロシア連邦の外交政策を監視することを可能し、軍事問題や「悪意ある影響」を含むという大まかな文言になっている。

実際には、アフリカ大陸への最も悪質な影響は、何世紀にもわたる搾取的で抑圧的な奴隷制度、植民地主義、入植者植民地主義、新植民地主義に起因し、アフリカの発展を阻害してきた。米国の法律は、AU加盟国に対する帝国主義の覇権を拡大するための新たなメカニズムであることは明らかである。

マラウィのチャクウェラ大統領は、SADC 議長としての退任演説で次のように述べた。

「私たちの先祖の時代には、彼らはここに来て、アフリカから国全体と人間を盗みました。そして今、私たちの時代には、彼らは贈り物と融資を持ってやってきて、私たちが注意しなければ、これらは、私たちの鉱物、淡水、人間の才能、肥沃な土地といった富を盗むためのトロイの木馬となることでしょう。私たちは、自分たちのものを守り、自分たちのものを誰にも奪われないようにしなければなりません。もし世界が私たちのものを欲しがらば、公正な貿易でそれを買ひ、その収益で新しい都市、新しい大学、新しいインフラ、新しい産業、そして私たちの人々を貧困から救い、障害者を含む最も弱い人々のニーズを満たすための新しいプログラムを自分たちで構築できるようにしなければなりません。また、私たちの団結力をもってすれば、誰かが私たちから盗んだり、私たちを利用して同胞や互いから盗んだりすることを拒まなければならないのです。だから、アフリカはビジネスのために開かれているが、売り物ではないことを、声を揃えて世界に示し、伝えましょう」。

現代の冷戦の激化

SADC サミットは、米国とフランスの指導者がいくつかの AU 加盟国を訪問し、アフリカ大陸で激しい外交攻勢をかけているときに開催された。プリンケン米国務長官は 8 月に 3 カ国を訪問した。彼の任務は、モスクワと北京に反抗するよう各国政府を説得することであったが、失敗に終わった。

プリンケン氏の訪問は、ロシアのラブロフ外相がウガンダとエチオピアを訪問し、エチオピアで開催されるサミットに向けた準備を行った後に行われた。フランスのマクロン大統領は、自国への天然ガス供給量の増加を交渉する目的で、エネルギー業界の高官らとともにアルジェリアに 3 日間滞在した。

米議会での反ロシア法案は、帝国主義の影響力を国際的に拡大することを目的としたプロパガンダと心理戦キャンペーンの一部である。西側資本主義国に拠点を置く進歩主義者、反戦活動家、反帝国主義者は、ワシントンとその同盟国によるこれらの戦略が、本当に何を表しているのかを認識しなければならない。ペンタゴンの戦争マシンが資金を失い、解体されるまでは、西側産業国家と南半球の両方で、労働者と被抑圧者の社会条件に大きな改善はありえない。（了）